

# 高麗大学校保健科學短期海外研修を終えて

看護学部3年 101028 川田 恵

## 【はじめに】

2012年9月17～21日まで、韓国の高麗大学校保健科學大学の教授、大学生、大学院生の皆様に手助けして頂きながらミソドル病院、梨花女子大学、高麗大学校の見学、ソウル市内において異文化理解を兼ねて歴史的文化的施設の見学をしました。高麗大学校では私たちが盛大に歓迎していただき、放射線治療についての講義を受講しました。また、研修の合間には食事やソウル市内の見学を通して現地の学生の皆様と交流させていただき、研修がより充実した楽しいものとなりました。個人では体験することのできない経験をさせていただきました。皆様に心より感謝を申し上げます。この報告書では高麗大学校での授業内容とミソドル老人病院について報告させていただきます

## 【1. 高麗大学校での授業について】

今回の授業では放射線学科3年生の授業を受講させていただきました。パソコン室にて90分間、パワーポイントや映像、資料を用いて行われました。さらに、この講義においては全て英語で行われていました。

私たちは今回の研修をサポートしてくれている放射線学科の学生と講義に参加しました。現在、私たちの大学の看護学部においては看護の勉強に重点が置かれているために、放射線学科の講義内容はとても難しいものでした。講義内容は、患者の体内にある腫瘍に放射線治療を行う場合において、より効果的に治療を行うためにはどのように実践すべきであるかを順を追って説明していました。要約すると、対象となる腫瘍部へ一方向のみから集中的に放射線を当ててしまうと皮膚や骨などの腫瘍以外の身体への損傷が強くなるため、放射線を当てる方向や回数などを変化させて最大の治療を行うものでした。英語の会話力だけでなく、医療専門用語も多用されていて、授業内容の理解には苦労しました。しかし、サポートして下さる学生に解説していただき、何とか理解することができました。今回の講義を通して看護の視点だけのみならず、放射線の視点からも物事を考える大切さを学びました。また、高麗大学校では卒業までに5単位の英語での講義を取得しなければならないため、学生の英語力の高さを感じました。日本語や英語のみならず、語学力の必要性を感じました。以下、授業の様子の写真です。



## 【2. ミソドル老人病院について】

私たちの海外研修のスタートはここミソドル老人病院とシルバーケアセンターでした。韓国でも高齢化社会から高齢社会へと変化していく中で、このような老人病院が担う役割も大きくなりました。現在、同じ敷地内に新築中の新たな病棟も年末には完成予定です。ミソドル病院の理念「ほほ笑む人達’が集まって、年寄りの方々の全人的な治癒を通じて神様の愛を实践致します。」に基づいて、よりよい介護や治療が受けられる体制を整えていました。

そのなかでも特にシルバーケアセンターについて紹介します。施設種類としては老人専門療養施設（定員 35 名）、昼夜間(デイケア)保護センター(定員 35 名)訪問療養センター、訪問看護センター、訪問入浴センター、療養保護司教育院などがあり、総勢 59 名の医療職、事務スタッフによって運営されています。シルバーケアセンターへの入所には条件があり、日本でいう介護認定されている方のみ通うことができます。

ミソドル病院の特化サービスとして、医療支援サービス、専門看護サービス、リハビリ治療サービス、社会福祉サービス、家族支援サービスがあります。社会福祉プログラムとしては回想療法、美容サービス、ドンドクン体操、美術療法、お笑い療法、歌教室など工夫を凝らしたものがたくさんありました。自然があふれるスペースや廊下などには医師が作成した本格的な芸術品などが飾られていました。これらも患者の治療の一環として多くの刺激を得るために掲示されていました。屋上のガーデニングスペースでは定期的にパーティーを開催し、利用者の憩いの場となっていました。滑り止めのタイルや安全バーの配置など安全面の配慮も多くされていました。



この4泊5日間の高麗大学校保健科学短期海外研修を通して看護専門職としての知識を学ぶとともに国際交流の重要性、世界へ目を向けることの大切さなど多くのものを得ることができました。この経験を糧にしてより大きく成長していけるよう努力したいと感じました。貴重な体験をどうもありがとうございました。